

### 1 子どもの思いの連続

4月、教師から一枚のハンカチを手渡され、「世界に一つのハンカチをつくろう」と提案された子どもは、藍や玉ねぎで色を染めたり、刺繍をしたりして「つくる」ことを楽しみ始めた。つくることを楽しむ体験を重ね、子どもは他者に自分のつくったハンカチをあげたいと願い、「他者のためにつくる」という目的をもってつくり始めた。親しい友だちに、家族にハンカチを渡して、他者が喜んでくれたことを感じ、「つくる」ことの価値を見つめ直した子どもの姿が見られた。

10連休の前、子どもは自分が納得する出来映えのものができた時に、それを売ってみたいと思うようになった。「売る」ことを目的としたものづくりが始まった。もの以外にも、自らの体験を売ること考えた子どももいる。自らがつくったものに価値をつけ、他者にその価値の対価をいただくことについて考えながら、出店に向けての期待を膨らませて「つくる」ことを楽しんでいる。

### 2 「For You For Me」のこれから

6月22日と23日に浄興寺で行われる「浄興寺 de 縁日」で、出店し、自分や自分たちがつくったものや体験を他者に売る。子どもは、出店に向けて「売る」ことを目的としてつくっていく。また、出店を多くの人に周知してもらうための宣伝や、接客についても目を向け、活動をつくり出していくだろう。出店することを通して、他者につくったものや体験を買っていただくことを経験し、「つくる」ことの捉えをひろげたり、「私」と「他者」のあいだにあるものを感じたりしていく。

### 3 本時のねらい（本時における自分をつくり未来を拓く子どもの姿）

今つくっているものを共有し、仲間がつくる行為や思いにふれることを通して、他者を意識しながらつくることについて考えたり、他者から対価をもらうものをつくることについて考えたりしながら、思いをものに込めることの価値の捉えをひろげる。

### 4 本時の構想

#### ○ 互いにつくっているものを共有する

子どもは、出店に向けて自分がつくりたいものをつくっており、つくりたいものが一致する仲間と共に活動している。活動の途中でそれぞれがつくっているものやことを共有し、感じたことを伝え合う。子どもは、自らがそのものに見出した価値と仲間が見出した価値の一致やずれにふれ、「売る」ことやつくるものやことに込める価値を見つめ直す。

### 5 本時の展開

38・39M/全217M (65分)

時間	番号；子どもの活動 ・；子どもの姿	○；教師の手立て
40	<b>1 つくったものの値段について話し合う</b> ・100円くらいで売ったらいいと思うと話す。 ・そんなに高くして買ってくれる人がいるのかと話す。 ・もっと丁寧につくらないと売れないのではないかと話す。 ・自分は、いろいろな人に買ってもらうことを考えてつくったと話す。 ・藍染めして楽しかったから、お客さんにも体験して楽しんでもらいたいと話す。	○つくったものを近くに置き、見せ合いながら考える。 ○教師も子どもと一緒に思考する。 ○値段を考えつつも、そのものに込めた思いを語るように促す。 ○ネームプレートを活用し、子どもの発言を端的に板書する。 ○実際に販売されている商品の画像、価格や、商品に対するこだわり等の情報を示す。
15	<b>2 思考したことを作文シートに書く</b> ・クラスの仲間に、「いいね」と言ってもらえてうれしかったと書く。 ・一生懸命つくったけれど、本当に買ってもらえるのか心配だと書く。	○作文シートの記述の共通のテーマを示す。
10	<b>3 作文シートに書いたことを基に思いを共有する</b> ・出店に向けて、お客さんのことを考えて丁寧につくりたいと話す。	○必要に応じて教師が子どもの記述を取り上げて紹介する。